



## 園と小学校との連携・協働

先日、給食で玄米をいただきました。これは、昨年さくら組のみんながJA彦島支所の方々のご指導のもと、バケツ稲を育てて収穫したものです。バケツ栽培のため全員分でも収穫量は1合ほどしかありません。しかも、他のクラスにもおすそ分けしたので、自分たちがいただく量はひと握りです。それでもこの玄米は大好評。「おいしい!」とみんな味を噛みしめていました。自分たちが育てたお米ですものね。



1月25日、下関市食農教育実践報告大会が開催され、市内の各JA支所が近隣の小学校と米や野菜の栽培・収穫を行った発表がありました。幼稚園や保育園が参加して行ったという報告は市内で本園だけでした。子どもたちは、他のどの園もしていない貴重な体験をしたのです。

さて、そのさくら組。いよいよ来月は卒園、そして2か月後には小学校入学を迎えます。これから親子共々期待と不安が、踏切の警報機のように交互に灯り始めるのではないのでしょうか。

今から30年前、私が念願の小学校1年生の担任をさせていただいたときの、4月初めの学級通信を一部紹介します。原本は手書きですが、スペースの関係上活字に打ち替えました。

### 1の1通信 第2号 4月13日 (抜粋)

きのうは朝からどしゃ降りの雨。朝、おうちからお子さんを送り出されるときも、さぞかし心配だったことでしょうね。よっぽど車で学校まで連れて行こうかと思われたおうちもあると思います。

でも、よく心をオニにしてくださいました。きのうはみんながんばって学校まで歩いて来ました。朝の昇降口は、まるで敵の攻撃をくぐりぬけて味方の陣営にたどり着いた兵士たちのようでした。濡れたカッパを脱ぎ、長靴を脱いだ子どもたちの表情は安ど感に満ちています。「よくがんばって来たね。」、朝のお話の一番にそう言いました。学校まで歩くことさえ大変なのに、長靴、カッパ、傘というハンデを強いられたのですものね。

入学式の次の日にさっそく雨の洗礼を受けたのです。補足すると、実は下校の時がまた大変でした。ランドセルをしょったままカッパをうまく羽織れません。朝はおうちで着せてもらったのでしょうか。「カッパが着れない子おいで」と言うと、お利口にそろそろと行列を組み始めました。

今、全国すべての小学校とその校区内の園との協働で「架け橋プログラム」を作成し、年長から小一の2年間を互いの連携プレイでスムーズに過ごせるように工夫しています。1月22日には、彦島中学校区の3小学校と5園が集まって、その内容について協議したところでした。

協議会で、私の方から小学校に三つのお願いをしました。一つは、予備入学の時に給食のことや基本的な生活習慣のことなど、細かいことを注文せず、とにかく入学に対して希望と期待を膨らませてやってください。不安を与えることだけはしないでください。上述の雨の日の1年生も、入学をすごく楽しみにしていたからがんばって歩いて来ることができたのではないのでしょうか。

二つ目。園児たちは、話し合い活動を通して自分たちで課題を解決したり、自主的に物事を進めたりする経験を積んでいます。入学したばかりだから何もできないだろうという先入観は持たず、これまで付けてきた力を確実に伸ばしてやってください。

そして三つ目。園児たちは、遊びの中で手紙を書いたり、数を競ったりすることはありますが、平仮名や計算などの特別な学習はしていません。教科の指導はプロの小学校の先生方にお任せするべきだからです。最初は他園の子と差があっても、小学校で基礎からしっかり指導してください。

幼児期の学びを小学校でも引き継ぎ、確実に積み重ねてもらおう、また私たちは、卒園児が小学校で一生懸命がんばる姿を見守り応援する、それが「架け橋プログラム」です。(園長 寺本 明生)